

件名	放射性廃棄物の管理状況 (平成30年度(2018年度)第4四半期)
通報日	2019年 5月14日
概要	<p>平成30年度(2018年度)第4四半期の放射性廃棄物管理状況は別紙の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・別紙「放射性廃棄物管理状況(平成30年度(2018年度)第4四半期)」参照</li></ul>

放射性廃棄物管理状況(平成30年度(2018年度)第4四半期)

1. 放射性気体廃棄物の放出量

(単位: Bq)

		全希ガス	$^{131}\text{I}$	全粒子状物質	$^3\text{H}$	備 考
原子炉施設合計		ND	ND	ND	$9.3 \times 10^{10}$	放射性気体廃棄物の放出放射能(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気量(cm <sup>3</sup> )を乗じて求めている。 なお、放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 検出限界濃度は以下のとおり。  全希ガス: $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下 $^{131}\text{I}$ : $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下 全粒子状物質: $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下 ( $^{60}\text{Co}$ で代表した ) $^3\text{H}$ : $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下  また、原子炉施設合計値は、端数処理のため、排気筒別内訳の合計値と一致しない場合がある。
排気筒別内訳	1号機排気筒	ND	ND	ND	$1.1 \times 10^{10}$	
	2号機排気筒	ND	ND	ND	$5.4 \times 10^9$	
	3号機排気筒	ND	ND	ND	$1.5 \times 10^{10}$	
	4号機排気筒	ND	ND	ND	$8.5 \times 10^9$	
	5号機排気筒	ND	ND	ND	$3.3 \times 10^{10}$	
	6号機排気筒	ND	ND	ND	$1.3 \times 10^{10}$	
	7号機排気筒	ND	ND	ND	$7.3 \times 10^9$	
その他排気筒	焼却炉建屋排気筒(荒浜側)	異常なし※1	ND	ND	ND	
	焼却炉建屋排気筒(大湊側)	異常なし※1	ND	ND	ND	
	固体廃棄物処理建屋排気口	※2	※3	ND	※3	
年間放出管理目標値		$6.7 \times 10^{15}$	$2.3 \times 10^{11}$	—————	—————	

※1 通常レベルから変動していないことを確認して「異常なし」としている。

※2 全希ガスは廃棄物中に含まれないため管理対象外としている。

※3  $^{131}\text{I}$ 及び $^3\text{H}$ の発生量は無視できる程度と評価できることから管理対象外としている。

2. 放射性液体廃棄物の放出量

(単位: Bq)

		全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核種別						
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	
原子炉施設合計		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
排水口 別内訳	1号機排水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	5号機排水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	7号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値		$2.5 \times 10^{11}$							

(続き)

		核種別			<sup>3</sup> H	備 考
		<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	その他		
原子炉施設合計		ND	ND	ND	ND	放射性液体廃棄物の放出放射能(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排水量(cm <sup>3</sup> )を乗じて求めている。 なお、放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 検出限界濃度は以下のとおり。  放射性液体廃棄物( <sup>3</sup> Hを除く): $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下 ( <sup>60</sup> Coで代表した)  <sup>3</sup> H: $2 \times 10^{-1}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下 また、原子炉施設合計値は、端数処理のため、排水口別内訳の合計値と一致しない場合がある。
排水口 別内訳	1号機排水口	ND	ND	ND	ND	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	ND	ND	ND	ND	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	5号機排水口	ND	ND	ND	ND	
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
7号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし		
年間放出管理目標値					※	

※ 設置許可申請書において、周辺公衆の線量評価上  $2.5 \times 10^{13}$  Bqを用いている。

### 3. 放射性固体廃棄物の管理状況

	固体廃棄物貯蔵庫				貯蔵設備容量(本相当)	
	ドラム缶		雑固体	その他 <sup>※</sup>		合 計
	均質固化体	充填固化体				
当該期間の発生量	0 本	110 本	204 本	0 本相当	314 本相当	
当該期間の減少量	0 本	0 本	263 本	0 本相当	263 本相当	
発電所内減量	0 本	0 本	263 本	0 本相当	263 本相当	
発電所外減量	0 本	0 本	0 本	0 本相当	0 本相当	
当該期間末の保管量	662 本	2,379 本	27,393 本	0 本相当	30,434 本相当	

※ドラム缶に詰められない大型機材等であって、200Lドラム缶に詰めた場合の推定本数。

### 4. 使用済制御棒、使用済樹脂等の管理状況

	使用済燃料プール		タンク等
	制御棒	チャンネルボックス等	樹脂等
当該期間の発生量	0 本	0 本	5 m <sup>3</sup>
当該期間の減少量	0 本	0 本	0 m <sup>3</sup>
当該期間末の保管量	800 本	13,549 本	2,651 m <sup>3</sup>